看護師の活躍

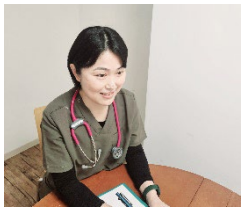
看護師
野呂　梓弥
2024年5月入社 奥沢配属

私は持病や機能障害を持っていても生涯在宅での生活を選択できるよう、看護師として役に立ちたいと思い、4年の病棟経験を経て訪問看護師に転職しました。訪問看護では担当する利用者様と長期的に関わります。訪問を重ね、少しずつ信頼関係を築く中で分かる、その方の考え方や思いに向き合い、寄り添い、その方に合わせた看護をよく考えます。難しいですが、それだけやりがいも大きいです。長く関わるからこそ分かる身体や心情の変化を多職種で共有しながら、みんなでその人にとってベストな医療体制を考える、家族・セラピスト・ケアマネジャー・医師・ヘルパー、みんながその人を思う、そんな温かい気持ちを日々感じられ、私もその一員として関わることができて嬉しく、またやりがいを持って働くことができています。時には判断に悩むことや不安に思うこともありますが、すぐに相談でき、また些細なことでも相談しやすく、一緒に考え、的確なアドバイスをしてくださる先輩が身近にいるので、安心して働けています。円滑に連携を図り、広い視野でアセスメントを行い、利用者様やご家族と良好な関係を築いている先輩方の姿をみて、自分にも成長の余地があると日々感じ、志を持って業務に取り組んでいます。（1年目の現場より）

メディカル
フットケアナース
伊藤　三枝
2023年1月入社
烏山 訪問看護管理者

看護師として患者様・ご利用者様と関わる中で、「自分の足で歩けなくなったら大変ですよね」「転ばないように気を付けて下さいね」と日常的によく使っている言葉があります。よく使っていても実際に、自分の足で歩き続けてもらうためにはどうしたらいいのか、転ばないように生活してもらうにはどうしたらいいのかを考え、ケアしていくところまでは出来ていなかったように思います。その様な中で、社内のフットケア研修に参加しました。研修では、足部の構造や機能・解剖などの知識の習得から始まり、爪や足のトラブルとそれに対するケアなど実技を交えて学ぶことができました。足やトラブルそのものを単体で捉えるのではなく、ご利用者様の状態を総合的に判断し、予防のための一歩先の提案をすることが大切だと感じるようになりました。また、セラピストと連携をとりながら、それぞれの側面からトータル的にご利用者様をサポートできることにやりがいを持っています。QOL・ADLの低下を防ぎ、自分らしく過ごす時間を長く保つためのお手伝いができるよう日々頑張っています。（3年目の現場より）

看護師 管理者
美濃　芙三代
2020年5月入社
杉並訪問看護管理者



入社のきっかけは、メディカルフットケアセミナーに参加したことでした。当時、私は別の訪問看護ステーションで働いていました。足にトラブルを抱えているご利用者様が多くいる中、ケアの方法が分からず、無力感を感じていました。セミナー受講後、さらにフットケアを学びながら、訪問看護の現場でいかしていきたいと思い、転職を決意しました。

社内でのフットケアナース研修会に参加し、認定テストに合格し今、ご利用者様にフットケアを提供させていただいています。現在ステーションの管理者もしています。ステーションには看護師・理学療士・ケアマネジャー・事務社員が在籍しています。ご利用者様へより専門性の高いサービスを提供できるように、職種を越えてスタッフ同士が協力し学び合えるような環境作りをしています。また、スタッフ1人1人が強みをいかしながら働けるようになればとコーディネートし関わるようにしています。「訪問時は1人ですが、ステーションに戻れば相談できる仲間がいる。」そう思い、安心して働いていただけるようなチームになるように、スタッフと一緒に日々取り組んでいます。（5年目の現場より）